昭和47年11月5日

山口県吉敷郡阿知須町
発行 阿知須町役場
電話 1番・〒754—12
印刷 阿知須砂郷よしの印刷

広報 あじす

No.252

町の住民登録人口
（47年10月31日現在） 前月比
世帯 2,014世帯 －2
人口 8.061人 －15
（男3.813人 女4.248人）
（国勢調査昭和45年10月1日）
世帯 2.008世帯
人口 8.035人
（男3.730人 女4.305人）

老人に生きがいを

みんなで進める老人福祉

〃おばあちゃん元気かね〃
民生委員が愛の呼びかけ運動

「おばあちゃん、元気かね」「変りはないかノ」…ひとりずまいの老人にみんなで声をかけようという運動を町の民生委員会が提唱、九月から委員がそれぞれの担当区域で実践しています。

町内にひとりで住んでいる人は現在三十六人。よそでは、ひとりのため誰にも気づかれないまま、病の床についていたり、死んでいたりしていたということが、しばしば起きています。それでなくてもひとりぐらしの人には話かける人もなくさびしいところがあるため、町の民生委員会（総務・芳野茂人さん）が『一日一回は老人に声をかける運動』つまり〝愛の呼びかけ〟を申合わせたものです。

民生委員は現在十四名おり、それぞれ行政区を二～三区受けもっています。委員はその区域内の老人をたえず訪れ、異常はないか、身体の具合はどうかと声をかけるようにつとめています。

各団体も真剣に話合い
中部地区社会福祉部会

しかし、これは民生委員だけでなく、幅広い協力が必要だとして婦人会などにも呼びかけて広く運動をすすめていくことにしています。みなさん、心のこもった呼びかけをしましょう。

この席で、現在、本町で実施している老人対策など明らかにしましたが、一体、現在どのような施策がとられているか述べてみましょう。

クラブ活動に助成

▽・老人クラブの育成＝現在十七団体、八百五人が加入しています。講演会や親ぼく会など活動したときは一回につき三千百円の助成（国県町が負担）が出ます。

ベットを貸付け

▽・ねたきり老人＝二人の家庭奉仕員が毎週二回、老人の家庭をまわっています。そして、炊事、洗濯、掃除など、身のまわりの世話をしています。現在の該当者は十一世帯十二人。また、ベッドを使ったのがよい人には、病人向きに作ったベッドを無料で貸付けています。使用者はいま四人です。

ベルで非常に備える

▽・ひとりで住んでいる老人＝町では六十五歳以上の一人世帯に〝愛のベル〟を設置しています。非常のときにボタンを押すと近所が、川は汽船がひっきりなしに往き来し、水は汚れ、風景も期待はずれでした。スイス、オランダでは湖に鴨や白鳥が住みつき、人を恐れないのがうらやましかった。自然保護が生かされているのを目のあたりに見た思いです。欧州各国の道はたの店で、人々が食事を長時間かけて楽しんでいるのも印象深く残っています。官庁の昼休みは時間が長く、午後は四時から始まるといった具合です。

○―結局、欧州を回わってみて日本人はもっと常職を備えた国際人にならなければいけないと痛感まで聞えるようになっており、近所の人にかけつけてもらおうというわけです。現在三十三戸につけています。取付ける前は「そんなものはいらない」と拒んでいた人も、これが付いてからは「心強くなった」といってよろこんでいます。

年間三千円の年金

▽・敬老年金＝町が八十歳以上の人に年三千円を差上げていますことしの対象者は百三十四人。

機能回復訓練をどうぞ

▽・老人の機能回復訓練＝身体が不自由ではあるが、訓練することによって機能を回復する見込みのある人にはお金を出して施設に入らせるようにしています。現在一人が日赤の施設に入っています

ふえる老人医療費

▽・老人医療の無料化＝七十歳以上の人の医療費はことし一月から県と町が負担しています。

これは山口県独自の福祉制度であって、来年度からは国の制度として実施することになっています

この対象となるのは本町で五百七十人。老人医療の公費負担となった最初の月、つまりことし一月には町の負担分は約五十万円でしたが、その後、次第にふえて、最近では百二十万円にものぼっています。

「欧米視察」感じたまま
中尾町長の帰来談

「あんぱいはどうかノ」―老人検診

中尾町長は九月三日羽田を出発二十七日帰国するまで欧米九カ国を視察しました。一行は自治省や各県の要職にあるもの二十七人。視察地はアメリカ、カナダ、イギリス、スイス、イタリヤ、ドイツフランス、ベルギー、オランダでした。次はその帰来談の要旨です

○―私たちの視察目的は地方自治と労働問題でした。そのために数カ国の内務省を訪れ、説明を受けましたが、私たちへのもてなし方をみても、それぞれお国柄が判るようです。アメリカでは部長が資料をつくって待っており、説明は円卓で、しかも、お茶を出すなど気楽な雰囲気でした。ドイツはたばこを出しました。しかし、フランスは何も出さず、説明をするにも講師が多人数に向って話すような形式でした。

○―アメリカでは黒人問題が大きな課題です。ニューヨークの人口七百八十九万人のうち二百八十万人が有色人種。そのうち八〇%が黒人とのことで、失業者は全人口の約一〇%。その殆んどが黒人です。市の総予算三兆円の三分の一は社会福祉費だといい、失業対策にこれまた多くの金が出されています。そのため行政面で大きな悩みをもっています。

○―歴史の長い国にはそれぞれ風格があり、建物にしても、古い姿そのままを誇るイギリス。それとは反対にみがきあげたのを自慢するフランス。イタリヤでは紀元前幾百年というような建物も残っており、人間も、長い歴史の中に育ってきたような美しさがあります。

○―スイスでモンブランに登ったとき、山の頂上に日本人の落書きがあった。帰国して北海道に行ったら、観光地という観光地は落書きがいっぱいでした。日本人の無秩序がとても腹立たしかった。落書きをしたり、食事のとき、ペチャペチャ音をたてることは外国人にとても嫌われることです。海外旅行をするにしても、こうした国際常識を備えなければバカにされに行くのがオチであろう。

○―ドイツのライン川を下ったいかにしたら老人に生きがいを与えることができるか…そうした老人の福祉を進めていくための話合いが十月二十三日、町役場で開かれました。これは県中部社会福祉事務所（吉敷、美祢、佐波の三郡を管轄）が主催したもので、町内の民生委員、青年、婦人などの団体、それに学校や警察、役場などの代表者約五十人が出席しました。

そして、現在の福祉行政の説明や今後の対策の進め方など真剣に話合いました。

お知らせ
監査委員に伊東氏再選
臨時町議会

第二回臨時町議会は十月十六日開かれ、一般会計の補正予算案など六議案を審議し、全議案を可決しました。

主な内容は次のとおりです。

▽阿知須中学校特別教室棟の新築工事契約＝三千五百七十八万円で安藤建設広島支店と契約。料理、工作などに使う部屋を四室とされぞれの準備室をもつ鉄筋コンクリート建て一棟をつくる。工事はすでに着手しており（本紙九月号で紹介済み）完成は一月末の予定。

▽町道の路線廃止＝①旦・野口線②旦前線③岩倉小松原線を町道からはずす。

▽一般会計補正予算＝歳入歳出とも六千三百八十四万六千円を追加して総額四億三千五百七十三万円に。当初予算より一億六千三百九十二万円の増加です。追加したもののうち歳出は道路、その他建設事業関係が大きな割合いを占めています。

▽交通災害共済特別会計の補正予算＝加入者がふえたため二十万八千円を追加して総額二百三十四万二千円に。現在までの加入者は三千五百八十人。見舞金を支払ったのは十一人で四十三万円です。

▽町監査委員の選任＝一般学識者選出の伊東隆一氏（六八）―旦東農協組合長―の任期満了（三年）に伴ない改選の結果、同氏を再選

町の監査委員は法の定めにより一般学識者と議会議員の中から各一人選ばれることになっています議会からは現在、水本忠雄議員が選任されています。

▽町教育委員の選任＝左記

藤敷氏を含めて五人です。役割りは本町の学校の組織編成、教育課程、教職員人事など教育行政に関することの管理、執行です。任期は四年。

（写真は久富和夫氏―右―と田中八重子さん）

新教育委員に
久富氏、田中さん

本町の新しい教育委員に久富和夫氏（五八）―砂二、利重仏具店勤務―と田中八重子（六二）―恵比須、同仁病院勤務―の二人がきまりました。

片山宥賢、江本フクオさんの任期満了に伴ない、議会の同意を得て決まったものです。

本町の教育委員は大田繁雄（教育長）中尾正一（教育委員長）佐藤敷氏を含めて五人です。役割りは本町の学校の組織編成、教育課程、教職員人事など教育行政に関することの管理、執行です。任期は四年。

（写真は久富和夫氏―右―と田中八重子さん）

十一月の学級
老人・青年・幼児

老人大学 十五日（水）午前十時半・阿小講堂
テーマ 老人のつとめ
講師 野上寛道氏

なお、終了後、阿小から岡山霊びょうまで歩け歩け大会をしますので弁当をご持参ください。

青年文化教室（一般教養）
十六日（木）午後七時・役場
テーマ 故郷と若者
講師 町社会教育委員の釈野憲章氏

幼児学級 十七日（金）午後一時半・役場
テーマ 望ましい生活習慣
講師 山口中央児童相談所判定課長の白井善雄氏

郷土芸能など上演
23日 町社会教育振興大会

町教育委員会では、十一月二十三日午後一時半から阿知須小学校講堂で社会教育振興大会を開きます。

今回は「社会教育団体の運営を自主的に進めよう」「生涯教育の必要性を認識しよう」「花とみどりの町、ゴミのない町づくりを推進しよう」をスローガンにして、みんなで考え、そして実行することをめざしています。

この大会では、河谷芳俊氏（防府多々良学園教諭）の『あたたかい家庭』と題しての講演や郷土芸能（小古郷代神楽、井関の闘鶏踊り、河内の百万べん珠数くりなど）の発表があります。また会場にはこれまで町内の人々が郷土資料として寄贈された民俗資料も展示します。

11月の行事予定

8・9日 一般住民検診（レントゲン撮影）＝お知らせ版10月号参照
14日 心配ごと相談・交通事故相談（前10時～後4時）
育児相談（後1時～3時）
15日 老人大学（前10時半・阿小）
16日 ポリオ生ワクチン投与（後1時半～2時半）
生後3カ月以上～18カ月まで
青年文化教室（一般教養）（後7時）
17日 幼児学級（後1時半）
19日 ソフト同好会「町長杯」
20～22日 成人病検診＝お知らせ版10月号参照
23日 社会教育振興大会（阿小・後1時半）
25日 盆裁会（後1時）
〔会場の記入のないものは役場〕

役場の執務時間 11月1日から午前8時半～午後4時半までの平常時間に戻させていただきました。ご了承願います。

（とじておくと便利です）

録音盤

韓国を団体旅行

斉藤照彦（浜）

○—韓国旅行…それは、ひょうたんから駒が出たような話です。商工会の野球のあと数人が「台湾にでも行ってみようか」と話合ったのが本調子になって参加希望者は、商工会青年部員を中心にして二十二人になりました。しかし、日中国交正常化以後台湾の事情が変ったので韓国に切替えたのです

○—日程は福岡から大韓航空で釜山へ。さらに乗継いでソウル（京城）まで行きました。時間はそれぞれ四十分ぐらいです。旅行社に納めたお金は福岡からソウルまで二泊三日の往復旅費、宿泊、観光バス代などセットで四万円でした

○—ソウルでは培文中高校生と親善野球大会をしました。韓国では硬球か準硬球しかなく、試合はわれわれが持って行った軟球を使いました。結果は十三対十一で勝ちました。帰りには持って行ったバットやボールを寄贈しました学校には二万円を寄付しました。しかし、バット五本を寄贈したことで釜山の関税にひっかかり、結局韓国に持ち込んだということで一万五千円の関税をとられました。知識不足がわざわいしたのですが、逆に考えるとよい勉強にもなりました。

○—今回の旅行で感じたことは外貨獲得のために外国旅行客には国をあげてサービスにつとめていることです。酒場は九〇％が日本人客だとのことでした。国営の賭博場があり、観光バスは国営のデパートにとまります。女性も親切です。しかし写真撮影の場所はとても制限しています。ガイドが写してもよいといったところだけしか写せません。市中を走る自動車の殆んどは日本のポンコツ車なみのものです。住宅にしても貧富の差がひどいように思いました。訪韓のさなかに戒厳令が布かれたことは全然、気がつきませんでした

（訪韓旅行団の代表となった町商工会青年部長）

陶芸で県展に入選

田中由紀子（浜表）

○—陶芸をはじめて約四年になります。職場のグループで倉敷に旅行したとき、たまたま陶芸館で焼き物を見て、私もやってみようかという気になったのです。それから宇部市の勤労青少年会館でやっている陶芸同好会に入って勉強しています。

○—県展に出品したのは置き物です。海ほうずきの形をしています。一年半ばかり前からこの形を心の中であたためていて、県展に出品するまで、二回試作しました。県展への出品ははじめてです。指導してくださる木屋先生（上宇部中学教諭）が「この形はおもしろいので出してみないか」といわれたものですから…

○—同好会員は二十三人。そのうち女性が約三分の二を占めています。毎週木曜日に集ってやっています。この中から三人ほど出品しました。入選は私だけでした。運がよかったのです。茶器のようなものは、じょうずな人がたくさんおられますので倒底かないません。陶芸作品としては形がおもしろかったからだと思います。

○—美術関係は高校（宇部中央高）のとき美術クラブで絵を描いていました。卒業してからは全然描いていません。週に三日編物を習い、陶芸に一日とられます。勤めは土曜日も夕方までありますので殆んど自分の時間がありません土いじりをすると手が荒れるといわれていますが、そんなに荒れることもないのでまだまだ続けたいと思います。焼き上ってカマから出すときの気持ちは期待とスリルがあって何ともいえません。

（宇部合成工業勤務・二十三歳）

みんな一緒に

まだまだ多い寄生虫

二十一日から　寄生虫予防旬間

十一月二十一日から三十日までは「全国寄生虫予防旬間」です。

寄生虫はむかしにくらべて減少しているようにみられていますが、実際にはふえ続けています。特にぎょう虫は子どもに多く、各種の障害をともない学力の低下をまねく大きな原因にもなっています。

最近、阿知須小学校で検便をした結果は二四・三％、井関小学校では一七・二％の児童に何らかの寄生虫がいることが判りました。全国平均は三〇％という数字が出ていますので、それより少いとはいえ、意外に保有者が多いので関係者は驚いています。

寄生虫は伝染病のようなもので家族、地域感染の危険性が非常に高いともいわれます。何か症状が現われたら、すぐに駆虫薬を飲むようにしましょう。

【回虫・ぎょう虫による症状】

回虫症＝腹痛、失神、めまい、食欲不振

ぎょう虫症＝こう門がかゆい、夜尿症、睡眠不足、夜泣き、労働力低下

火災の恐れはないか

防火運動は二十六日から

火災予防運動は十一月二十六日から十二月二日までくりひろげられます。

毎年、冬は火災が多く発生するため、シーズンにさきがけて防火運動をすすめるものです。

本町の火災発生件数はことし一月から十月末まで二件です。大きな火災には至っていませんが、今後、いつ大火事が起るか判りません。絶えず防火につとめましょう

なお、今回の運動は火災のおそれがあるところを防ぐように強調しています。

たばこは町内で

親子でめざす交通安全

児童自身で左右確認

〃過保護は事故をまねく〃

阿知須小学校PTAは四年前から生徒の登校時に交通指導をしていますが、最近、この指導方法を改めました。

つまり、これまでの指導は児童が道路を横断するとき、父兄が横断旗を出し、児童は左右を確認しないまま渡ることが多かったわけです。そのため「自分で安全を確める」という習慣がそこなわれ、おとながいないときは事故にあう率が高いといわれるようになりました。

そこで、過保護はかえって事故をまねくということから、児童に自主性をもたせようという反省にたったもので、今後は父兄は横断歩道のところにたって助言するだけ。一方、生徒は自分たちで左右の安全を確めて横断することにしたものです。

幼児交通安全クラブを結成

町内の幼児と母親による「幼児交通安全クラブ」が発足、小郡警察署では親子一緒に交通指導をすることになりました。

これは同署の呼びかけで本町にある保育園の幼児と母親で結成したもので、親子が交通安全に心がけ明るい生活をおくろうというのがねがいです。指導日は次のとおりです。

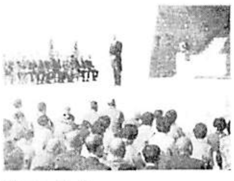
11月15日（水）
午前9時　砂郷保育園
午後3時　岩倉保育園
11月16日（木）
午前10時　生命学園松陰保育園

町内あれこれ

先霊に感謝を捧ぐ

合同納骨塔の慰霊祭

合同納骨塔ができてこの十月で満五年を迎えましたが、この慰霊祭が十月二十二日同所で行なわれました。



現在、納骨塔に納められているのは約六百戸。慰霊祭は中尾町長らの弔辞のあと各団体や官公署の代表らが献花しました。

そのあと奉賛会主催の慰霊祭にうつり、僧侶五人の仏式による読経で霊を慰めました。

この日の参列者は約百五十人。町外からわざわざ参詣したものもあり、遺族全戸に町から供菓を贈りました。

（写真は慰霊祭の会場）

砂郷が総合優勝

〃体育の日〃の球技大会

町内球技・婦人バレーボール大会は十月十日「体育の日」に阿知須中グランドで、四種目にわたって熱戦が展開され、砂郷チームが総合優勝しました。

成績は次のとおりです。

◇ソフトボール（十四チーム）①砂郷②縄田③中西・東条

◇バレーボール（十四チーム）①中西②赤浜③縄田・鴨生原

◇卓球（九チーム）①寺浜②日岡③縄田・中西

◇婦人バレーボール（十四チーム）①砂郷②中西③縄田

◇総合成績　①飛神②砂郷③岩倉・鴨生原

田中さん初入選

県美術展覧会

ことしの山口県美術展覧会は十月下旬、山口博物館で開かれましたが、本町から工芸の部に田中由紀子さん（浜表）＝本ページの録音盤の欄参照＝が初入選しました作品は「海ほうずき」と題した陶芸品です。（写真は入選した田中さんの作品）

年賀はがき発売

差出しは来月十五日から

お年玉付年賀はがきは十一月六日発売。阿知須局の割当ては十円が四万五千枚、十一円が二万二千枚です。

賞は一等折たたみ自転車か卓上計算機、二等電子ジャー、三等園芸セット、四等封筒セット、五等切手シート。

年賀郵便の特別扱いは十二月十五日から二十八日までです。しかし、二十二日ごろまでには出してほしいと郵便局では希望しています。

町民文芸

夕方のたいよう

阿知須小二年　ふかの　いずみ

夕方、
家の中が、ぱっとあかるくなった
まどをあけると
たいようの光りが　かがやいている。おかあさんに、「今は、ばんなのにこんなに、きれいなのは、
なぜかねえ。」と、いうと、
「きっとこれがさいごの光かもしれんね。」と、いわれた。
ずっと見ていると、
黄色やピンクにかわった。
それからくらくなるにつれて
きえていった。

ハーモニカ

井関小四年　吉村　則子

わたしの大すきなハーモニカ。
二列にならんだ小さなまどに
ひとつひとつ
ちがった音色が住んでいる。
高い音色は
わたしの心をうきうきさせ、
低い音色は
しんみりと落ち着かせてくれる
ハーモニカはふしぎなまどだ。

第42回阿知須短歌会

岩上　上重　朝子
水仙を植えんとひきし鶏頭の美しき花捨てがたく思う

寺河内　兼重　きぬ
蟬を追いてかけまわる子等の声きこゆ公園近く草取り居れば

縄北　潮崎　一雄
白雪を夕日に染めて暮れかかる加賀の白山を能登より眺む

浜　正司ウメノ
片言を言いつつ孫の指すかなたまだ暮れきらぬ空に月見ゆ

砂一　田村　艶子
街並のガラスに写る我姿しせいの悪さに急いで通る

砂二　橋本　淑子
誕生日近づきし父に冷房のききたる店にてセーターを買う

西条　原田　双恵
穂殻焼く烟は田面這うごとく北へ北へとなびき薄れぬ

砂三　藤永ミツノ
わが家の前に繁れる草の中虫の数々夜もすがら啼く

北祝　部坂　秩子
子らのふく運動会の鼓笛の音穂孕む稲田越えて聞こえ来

砂一　松代　二郎
撫せてやる心やさしと知るや孫首をちぢめて笑顔するなり

砂二　渡辺　宮子
宍道湖畔たちまち暮れて老いし人の蜆選り分くるとうしの音ひびく

浜　石田サダコ
バラの香の匂う南の風受けて夏向きの商品棚にならぶ

次回は十一月十八日午後七時半から商工会館で。詠草は十五日までに兼重きぬさん（寺河内）方へ

役場の窓

◆・生きがいのある老後を…ということで、いま、行政機関はこの問題に大きくとり組んでいます。しかし、財政面の援助だけでなく精神面でもいかに満足感をもっていただくかということが課題の一つです。社会福祉制度の確立された欧州の国で老人の自殺が多いというのも、つまるところ孤独さからくるのが大きな原因ともみられています。周囲の人々の温い心が何よりの支えとなる場合もあります。〃老人に声をかける運動〃をあなたが率先されることを願っています。

◆・秋は結婚シーズン。役場の中でも結婚が相つぎ、十月から十二月にかけて四人の青年が結婚します。また、吉野喜代埼（交通防災対策室）は全国青年大会陸上競技千五百メートルに県代表として出場します。役場ソフトボールチームは県下の町村会ソフトボール山口地区予選で優勝、県大会に進みました。こちらはまさに若さがいっぱいということろ。

◆・本町が山口市から分離独立してこの十一月二十三日で満二十五周年になります。記念行事は特に行ないませんが、一面記事のとおり、この日開く社会教育振興大会で、郷土芸能の発表や民俗資料の展示をします。古きをたずね新しきを知ると共に、民俗資料をみられて「こんなに身近なものなら家にもある」と思われる方がありましたら、ご寄贈いただくとしあわせます。それがまた、先祖の生活を知るのに生きた資料となるのです。

慶弔録

出生（おすこやかに）

父	続柄	子	月日	部落
藤岡昭敏	二女	麻子	9・18	縄北
古谷悦治	長女	美雪	9・27	岩前
磯部美治	一男	茂樹	10・11	恵比須
植田征司	長女	幸恵	10・14	前山
松井龍象	長男	厚志	10・17	浜
小倉　繁	長男	賢一	10・21	小西

婚姻（おしあわせに）

叶谷　幸久　中村
晴子（茂藤）宇部市東岐波

伊藤　義明　山口市小鯖
望（原田）西条

松永　実　源河
末江（田中）山口市佐山

松岡　順夫　宇部市港町
敏子（藤田）引野

山本　義雄　山口市佐山
フサ子（牧野）岩西前

亀村　知美　浜
清子（福田）美祢市大嶺町

戎谷　勲　岡
恵美子（田中）山口市江崎

三分利俊夫　岩西前
道子（中）東京都豊島区

塩見　猛（末永）飛石
清子　砂二

重田　三男　日東
千鶴子（大西）香川県観音寺市

古川　敏男　浜表
さい子（西村）宇部市西岐波

藤田　久行　宇部市東岐波
弘子（坂野）南祝

中田　憲明　西条
悦子（張替）千葉県習志野市

藤重　栄治　小西
政子（縄田）小東

竹森　睿二　前山
和子（安永）小南

藤田　博美　青畑
幸恵（岩田）宇部市中宇部

田辺　時夫　岩西
吉志子（松崎）福岡県八女市

片山　利明　河内
敏子（杉山）山口市江崎

藤本　正夫　小西
京子（佐々木）島根県那賀郡

鈴木　弘之　河内
美智子（清水）吉敷郡小郡町

有福　義範　小野田市有帆
俊子（中野）岩前

死亡

（ご冥福を祈ります）

氏名	死亡月日	年齢	部落
林　文一	10・9	72	南祝
塩部　豊市	10・9	60	浜
長田　健治	10・9	25	小南
徳田　克忠	10・17	52	浜
田辺チヨ子	10・14	65	岩西
明徳　太助	10・21	63	寺河内